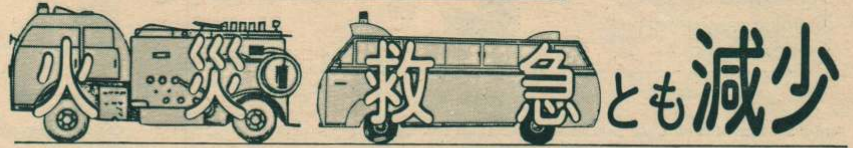


56年消防白書



大館周辺広域圏組合消防本部では、このほど五十六年中の火災の発生状況と救急車の出動状況をまとめました。これによると、大館市、比内町、田代町での火災発生件数は五十五年に比べ件数、損害額、死傷者数とも大幅に減少しました。また救急車の出動回数も、四十一年度に業務を開始して以来初めて減少に転じました。以下消防白書のあらましをお伝えします。

火災原因のトップは タバコの火の不始末

広域消防本部では、一般家庭一予防に努めてきました。その結果、昨年は五十五年より五件少ない三十六件で、過去五年間でも最低となりました。

これを人口一人当たりの出火率にすると、圏域では三・七％で、全国平均五・一％、県平均四・五％を下回っています。

本市の火災発生件数は、二十五件、損害額は一億三千万円となっております。

火災発生の一歩多きは、十一月が七件で最も多く、一月、十月が六件となっております。おりから冬に

かけて多発しています。これは、暖房器具の使用と密接な関係があり、今後の予防活動の課題とされるので、

火災の発生原因は、昨年トップであったタバコ、石油ストーブに変わって、タバコの火の不始末からの火災発生が異常に多くなっています。

火災発生時の気候は、火災発生時の湿度は八〇％から九〇％、毎秒一・二メートルの南風のときに多く発生しています。

昨年の傾向として、わずかながら防火意識の向上、努力が評価されるので、努力が評価されるので、

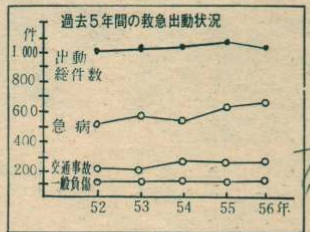
市民一人一人の注意こそが、生予防のための最善策です。皆さんのご協力をお願いします。

救急車の出動回数 初めて減少に

救急業務については、五十六年中の出動回数が圏域で一千六百九十九回、一日平均にすると

約三回となつています。五十五年に比べると七十六回減で、昭和四十四年度に業務開始以来毎年増え続けていたものが、初めて減少に転じており、正しい救急車の利用が住民に浸透してきていることをうかがえます。

事故別にみると、相変わらず急病によるものが一番多く、次いで交通事故、一般負傷などとなっております。また、緊要を要しない場合の出動回も非常に多くみられ、消防本部では、生命にかかわる傷病以外の出動要請はしないようにご協力を呼びかけています。



地域農業の発展を話し合う 大館市地域農政推進大会

大館市地域農政推進大会が二月二日、秋北ホテルで農政関係者や農事連絡員など約三百人が参加して開かれました。

二年続きの冷害、第二期水田転作集団の部

△優秀賞 餅田、葛原、柄沢、町、片山各転作集団

△優秀賞 高村集落栽培組合

△優秀賞 小畑連合(四羽出)

暦の上では立春も過ぎましたが、連日の寒波、そしてカゼが大流行しています。アメッコ市にあやかり、カゼをひかないで欲しいと思います。

非行の責任は誰

社会問題となっています。青少年の非行問題ですが、お互いに責任を回避したのでは対策はできません。責任は社会にあるのですからそれを正さなければなりません。

教育そのものの自主性を抑圧する体質、能力主義を重視する余りの競争心理の過熱、根強い金権、腐敗体質への無力、そして子供をむしばむ退廃文化への無抵抗等々がそうではないでしょうか。

私たちは、いち早く社会浄化こそ先決だとして「環境浄化都市宣言」をいたしました。逆社会の責任ということで他人まかせであってはならないことです。

社会の構成員は個人個人でありますから、社会の責任において社会を浄化する規律(社会を構成する単位団体)と個人個人の果たすべき役割があります。

設計から完成まで三カ年をかけた市民文化会館の工事も、ようやく終わり、二月末には引渡しを受けることになりました。

この間、関係者の方々の並々なぬご指導ご協力を、そして周辺の市民の皆様には大変なご迷惑をおかけしました。衷心よりお詫びとお礼を申し上げます。

六月二十七日にコケラおとしを行うことに決定し、諸々の行事計画を市民の代表の方々と協議立案中です。

文字通り市民文化の殿堂として、活動の拠点として最大限に活用いただき、最終的に市民の生活文化の振興、向上に役立てていただきたいものと熱望いたします。

留山健治郎



市長のひとこと

No. 45

六月二十七日にコケラおとしを行うことに決定し、諸々の行事計画を市民の代表の方々と協議立案中です。

市役所をいかに活用するか

中央玄関を入り階段を上がると、新庁舎中央に商工観光課があります。商工観光課には商工係と観光係のほか、地域振興対策プロジェクトチームが設けられています。

商工係では、どんな仕事をしていますか。主として商業、鉱工業の育成と振興を図るための仕事です。具体的には大型店問題を含め、商店街近代化を進めるための調査事業と商業の経営安定、改善のためのマル大融資のあっせんを行っているほか、工業の施設、設備の近代化を図るための機械類の貸付業務、各種金融に関する相談に応じえています。

また、はかりの検査、シルバリー人材センターの育成、働く人たちの労働福祉のほか、地場産業の育成と振興等の集団化、曲げわっぱなど伝産品産業の振興などが主な仕事です。

観光係では、どんな仕事をしていますか。観光宣伝と振興を図るための仕事ですが、具体的には、アメッコ市、桜まつり、夏まつり

二井田に造成された工業団地には、現在三社が誘致され約四百人が就労しています。しかし、若い人たちが市内で働くには職場が不足し、京浜地方へ流出していることから、魅力ある職場をつくること、工業の発展を図る必要があります。このようなことから、主として企業の誘致と工業団地拡張のための用地確保がプロジェクトチームの仕事です。

電話 4913111 内線 282284

納税はくらしと市政を結ぶ糧

「今年は三位以内をネライました。今日の勝因はワックの成功と練習の成果です」と語る田中長義さん、二位に十一秒の差をつけてみごと優勝しました。

練習は、毎日四時に仕事(同和鉱業深沢鉱業所勤務)が終ってから、小坂のスキー場に行き、八キロを滑走しているとのこと。「勝つためには

市民スキー大会一般40歳以上の部 距離優勝 田中長義さん(47) (根下戸町)

年は関係ありません。毎日の練習の積み重ねです」と力強く話します。

田中さんのご家族はスポーツ一家で、三人の子供たちは「冬はスキー、雪が解けるとジョギングや山探りで体を鍛えているとのこと。」「今年、山梨県河口湖で行われる世界高齢者マラソン大会に出場し、いい記録を出したい」とこれからの抱負を語ってくれました。



ナンバーワン 登場